

エレン・G・ホワイトの生涯 ～SDAに大きな働きをした、一人の女性の物語～

Seventh-day Adventist Church

2023.03.20

1827年11月26日、アメリカ、メイン州ゴーハムで出生（命名：エレン・ハーモン）。

父：ロバート・ハーモン（帽子職人）、母：ユーニス・グールド・ハーモン、双子の姉エリザベスとサラ、四人の兄？。

1836年（推定）、9歳の頃、クラスメートの投石で顔に大怪我（Dr. レビ・ストックマン）。

1840年2月13日、3月、6月農夫ウィリアム・ミラー（妻：ルシー）の再臨に関する講義（再臨使命）を聴く。

1840年3月20日、W・ミラーとジョシュア・ハイクス、サインズ・オブ・ザ・タイムズ（新聞）発行。

1840年10月13日、ミラー運動、最初の集会（ボストン、主催：ハイクス）。ジョセフ・ベイツ（元船長、アドベンチスト教会設立の中心的役割を果たす）参加（W・ミラーは体調不良で欠席）。

1842年6月26日、バプテスマを受け、メソジスト教会員になる（14歳）。

1843年9月、再臨信仰が教会に受け入れられず、家族と共にメソジスト教会を除名される。

1844年10月22日（ユダヤ暦：第七の月の10日、W・ミラーは日付の特定に反対）、イエスの再臨はなく、大失望を迎える。

1844年12月、ポートランド（アメリカ合衆国オレゴン州北西部マルトノマ郡にある都市）での祈りの会で最初の幻—再臨信徒の経験とキリストの再臨、そして忠実な者に与えられる報いを示される—を与えられる（17歳、病弱）。最初の幻の約一週間後、第二の幻—これからの試練、神からの啓示を伝える使命、その働きには神の支えがある—を与えられる（この第二の幻で、神は彼女をメッセンジャーとして召命された）。その後には与えられた第三の幻で励まされ、勇気を持って周囲の人々に証しを始める。

1846年8月30日、元教師／再臨信徒で信徒説教者／牧師ジェームズ・ホワイトと結婚（18歳、ポートランド裁判所）、エレン・グールド・ホワイトと名乗る（出会い：ジェームズ23歳、エレン18歳）。

結婚直後、ジョセフ・ベイツの第七日安息日の小冊子を読み、第七日安息日を守るようになる。

1847年4月3日、天の聖所に関する幻が与えられ、十戒の第4条を示され、第七日安息日の重要性を深く認識する。8月26日、長男ヘンリー・ニコルス誕生。

1848年4月～10月、メイン州、ニューヨーク州等で開催された安息日会議出席。

1848年11月、出版事業開始をするようにとの幻やタバコなどの害に関する幻を与えられる。

1849年7月、「現代の真理」THE PRESENT TRUTH等を発行。次男ジェームズ・エドソン（エドソン・ホワイト）誕生。

1850年11月、「ザ・セカンド・アドベント・レビュー・アンド・ザ・ヘラルズ」発行。

1850年12月、天に秩序があるように地上の教会にも秩序と組織が必要であることを幻で与えられる。

1851年、最初の著作「エレン・G・ホワイトのクリスチャン経験と幻の概略」出版（→1882年出版「初代文集」に納められる）。

1852年4月、ニューヨーク州チェスターに移転、印刷所設立。

1854年、「エレン・G・ホワイトのクリスチャン経験と幻の概略」の「補遺」出版（→1882年出版「初代文集」に納められる）。

1854年8月29日、三男ウイリアム・クラレンス（ウイリー／W・C・ホワイト／ジョージ・ステイト）誕生。

1855年11月、ミシガン州バトルクリークに移転。同地にレビュー出版社設立（編集長：ユライア・スミス）、末に「教会へのあかし」（16頁のパンフレット）第一号出版。

1858年3月14日、オハイオ州ベッツグローブでメッセージの根幹、中心課題となる各時代の争闘に関する幻（約2時間）を与えられ、その内容は、9月に「霊の賜物」第一巻（219頁）として出版される（→後に「初代文集」に納められる）。

1860年、組織の名称が「セブンスデー・アドベンチスト」に決まる。

1860年12月14日、四男ジョン、生後三か月で病死。

1863年12月8日、長男ヘンリー・ニコルス病死。

1863年6月5(6)日、ミシガン州オッセゴでサンセット礼拝中に健康改革に関する幻を与えられる。

1864年、「霊の賜物」第四巻出版（健康改革に関する幻の内容を含む）。

1865年8月16日、ジェームズ・ホワイトが脳卒中で倒れる（看病：～68年）。

1865年12月25日、医事伝道と病院事業に関する幻が与えられる。

1866年9月5日、西部健康改革センターWestern Health Reform Institute 開設式出席、病弱事業開始（→バトルクリーク衛生病院へ）。

1868年9月1～7日、最初のキャンプ・ミーティング開催。

1870年、「預言の霊」第一巻出版。

1872年、「適切な教育」記す。

1872年6月、セブンスデー・アドベンチストの最初の学校を開校（生徒：ジョン・ハービー・ケロッグ、ウィリアム・ケロッグ、ジョージ・ステイト、エドソン・ホワイト、ウィリアム・ホワイトの5名）

1872年9月、カリフォルニア州に最初の伝道旅行。「教会へのあかし」第三巻出版。

1874年4月1日、海外伝道活動の重要性についての幻を与えられる。

1874年8月14日、J・N・アンドリュースを海外宣教師としてスイスに派遣する。

1875年1月3日、諸外国（スイス、ノルウェー等）における出版事業に関する幻を与えられる。

1875年1月4日、バトルクリーク大学開校式出席。

1877年、「預言の霊」第二巻記す。

1878年、「預言の霊」第三巻記す。

1881年8月6日、ジェームズ・ホワイト死去（60歳）。

1882年、「初代文集」出版。

1884年、「預言の霊」第四巻出版（「各時代の争闘」の原型）。

1885年7月13日～1887年8月11日帰国、ヨーロッパ伝道協議会の要請でヨーロッパ各地を訪問。

1888年、「各時代の争闘」出版、その後の一連の書物、「人類のあけぼの」（1890年）、「キリストへの道」（1892年）、「祝福の山」（1896年）、「各時代の希望」（1898年）、「キリストの実物教訓」（1900年）等で、イエスの贖罪による救いを説いた（カリフォルニア州ヒルズバーグ）。

ミネアポリス（ミネソタ州東部に位置する都市）世界総会。総会に先立って開かれた牧師会でA・T・ジョーンズとE・T・ワゴナーが信仰による義の提示を行い、エレン・G・ホワイトも支持したが、一部の指導者等が拒み、総会は混乱した。

1891年3月21日、世界総会時、南部伝道を勧告。後、息子のジェームズ・エドソンが1895年からミシシッピやテネシーなどの南部各地で伝道開始。

1891年11月12日～1900年8月、世界総会の要請（陰謀）により、オーストラリア伝道へ。
→メルボルンに聖書学校設立、医事伝道（病院事業）、「人類のあけぼの」（1890年）、「キリストへの道」（1892年）、「キリスト教教育」（1894年）、「祝福の山」（1896年）、「各時代の希望」（1898年）、「キリストの実物教訓」（1900年）等を完成、出版。

【参考】エレン・G・ホワイトの苦悩と決意の手紙

1891年の終わり（→11月12日、夫のジェームズ・ホワイトは1881年8月6日に死去している）に、エレン・G・ホワイトは、世界総会の（悪意ある：谷口）要請にこたえて、オーストラリアで新しく始められた仕事をサポートするために、オーストラリアで9年間（→この間に、「キリストへの道」「祝福の山」「各時代の希望」「キリストの実物教訓」を出版、1900年8月アメリカに帰国する）も生活することになりました。しかし、到着して間もなく、苦痛の多い長引く病気にかかってしまうのです。その時に書いた手紙が残されています。

「どの手紙も、一ページから二〇〇ページにわたって、私が書いたもので、そのほとんど全部が、枕を使ってベッドによりかかり、半分横になり半分座ってか、または、あまり気持ちの良くないいすに座って、元気を出しながら書いたものです。座ることは、私の腰と背骨の下部に、非常な苦痛を与えます・・・正しく座って、頭をあげていることは、とても疲れます。私はいすの背に枕を置いて休み、半分よりかかっていなければなりません。これが現在の私の状態です。」

しかし私は少しも失望してはいません。私は毎日支えられているのを感じます。退屈するような夜の長い間、多くの時を祈りに用いました。すべての神経が苦痛のために叫んでいるように思われる時、キリストの平和が私の心にあふれてきて、私は感謝と賛美に満たされるのです。私はイエス様が私を愛してくださることを知っています。そして私もイエス様を愛しています。ある時は三時間しか眠りませんでした。しかしこの長い夜の暗闇の中で、私の周囲は輝き、神様との交りを楽しんだのです。

はじめに私がどうすることもできない状態になった時、広い海を越えて来たことを深く後悔しました。なぜアメリカにいなかったのだろう。なぜこんな犠牲を払ってこの国に来たのだろう。何回も何回も私はベッドの掛ぶとんに顔を埋めて、思う存分泣きました。しかしいつまでも涙にくれてばかりはいませんでした。私は自分に言いました。

『エレン・G・ホワイト、あなたは何を考えているのですか。あなたが行くのが最善だと教会が判断したところに行くことが自分の義務と思ったから、オーストラリアに来たのではありませんか？それがあなたがいつもしてきたことではありませんか』『はい』と私は答えました。『それならあなたがほとんど見捨てられたと思い、失望を感じるのなぜですか。それは敵のしわざではありませんか』『そうです。そう思います』と私は言いました。私はすぐに涙をふいて、『もう十分です、もう物事の暗い面は見ません。**生きるも死ぬも、私のために死んでくださった方に魂をお任せします**』と言いました。

私は主がすべてを良くしてくださることを信じ、どうすることもできない八か月の間、気落ちすることも疑うこともなく過ごしました。今はこのことをこの国の信者のためにも、アメリカの信者のためにも、私のためにも、主の大きな計画の一部と見るできるようになりました。その理由も、どうなるのかも、説明はできませんが私はそう信じています。そして私は苦しみの中にあっても幸いです。私は天の父なる神に頼ることができます。その愛を疑いません。日夜見守ってくださる保護者があり、私は主を賛美します。心に感謝があふれるので、唇は主を賛美するのです。」

参考：「セレクトッド・メッセージズ」エレン・G・ホワイト 著 二巻 P.242

1980年代半ばから、不況の影響もあり教会経済は悪化、多額の負債を抱え、危機的状況となる。→献金減少、支出増大、バトルクリーク衛生病院建築費援助、不適切な支出：不必要な指導者の海外旅行等。

霊性低下と世俗化 P.24

当時、教会が直面していた大きな問題の一つは、**指導者たちの霊性低下と世俗化の問題**でした。E・ホワイトは、1890年11月3日とその後の幻の中で、バトルクリークの人々が大事なことについて**神ではなく人の知恵に頼っている、神に関する大事な事柄が経験不足の人々の手にある、指導者たちは自分たちの意見に賛同する人たちだけを集めている、**など極めて大事な事柄が示された。

1892年、E・ホワイトは「**自己中心、貪り、誇り、争い、心の頑なさ、肉欲、悪しき慣習**」が教会の中に見られる（→代表例：レビュー出版社）、と書き、また清められていない牧師たちが完全な改革を経験しない限り、牧師の働きを去るべきである、とまで訴えた。

中央集権化 P.25

もう一つの問題は、世界総会を中心とした中央集権化と統合化の問題であった。世界総会の総理と少数の人々は、教会のあらゆる面で支配権を行使し、小さなことまで彼らの承認を求めた。また、レビュー出版社、バトルクリーク衛生病院、バトルクリーク大学の指導者たちは、同種の機関を一つの理事会のもとにまとめて統合化しようとした。そうすることで、働きの一致を保つことが出来る、経済的である、効率的になると主張した。

E・ホワイトは、1890年代を通して教会のこのような過ちを「**少数の人々に権力を集中したり、一つの機関を他の機関のもとに置くことは神の計画ではない**」と指摘、改革を訴えた。また、**中央集権のもとでは、人々は権威のある者に導きと支持を求め、最も大事な神に依存するという経験を失ってしまう、**と警告した。教会は明らかに改革が必要でしたが、指導者たちは改革の一步を踏み出せなかった。

1900年8月、帰国。カリフォルニア州セントヘレナ衛生病院に近い地、エレムスヘーブンに居住。「教会へのあかし」第六巻出版（教育に関する重要な証しを含む）。

1901年4月1日、世界総会出席（バトルクリーク）の前日、バトルクリーク大学図書館で開かれた指導者たちの集まりに出席する。その時（1980年代に明白になった諸問題がこの時点でも未解決の状態）、E・ホワイトは、中央集権体制の過ちを再度述べ、**少数の者が十分な知恵と力を持つべきという考えは誤りで、全く異なった体制、再組織化が必要である**ことを訴えた。

1901年4月2日、世界総会出席（73歳）し、約1時間にわたり、代議員たちに厳粛なメッセージを行い、構造と経営において問題点を指摘、譴責する（大変革、再組織化の必要を力説）。結果、中央集権化等の問題を是正、新たに世界総会責任者にA・G・ダニエルズを選ぶ。併せて、借金体質からの脱極を決める。

1901年8月、南カリフォルニア地方における病院事業の重要性の幻を受け、大きな病院を建てるより、病院を各地に建てる必要性を神より示される（→**小さなことから始める**、参考文献、P.35～）。

1902年、SDA負債額200万ドル（内、一信徒より73,000ドルの借入）。「教会へのあかし」第七巻出版（医事伝道に関する重要なあかしを含む）。

出バトルリーク

1980年代のバトルリークには、世界総会本部、レビュー出版社、バトルリーク大学、バトルリーク衛生病院があり、SDAの本拠地となっていた。バトルリーク衛生病院は、J・H・ケロッグの指導の下、巨大化していた。同時に、バトルリークのSDAの霊性低下（敬虔や献身の精神が希薄で、この世的自己中心の精神になっていた）、原則から離れた経営がE・ホワイトを悩ませていた（→参考文献P.30～）。→1902年2月18日、バトルリーク衛生病院大火

1902年12月30日、レビュー出版社大火

E・ホワイトは、何より世界総会などの諸機関がバトルリークでなく、他所で新しい雰囲気、環境のもとに働きを進めて行くべきと主張、出バトルリークを説いた。

※J・H・ケロッグ医師（1907年除名）、A・T・ジョーンズ牧師、A・F・バレンジャー牧師等と見解、方針の違いにより離別

1903年、世界総会、レビュー出版社がワシントンD・Cに移転。「教育」出版。

1904年、パラダイス・バレイ「教会へのあかし」第八巻出版。

1905年、ローマリンダ衛生病院設立を勧告・尽力。看護学校設立。「ミニストリー・オブ・ヒーリング」出版。

1906年、ローマリンダ衛生病院献堂式で講演。

1906年、ローマリンダ医事伝道大学設立（1909年12月、カリフォルニア州が認可）。

1909年5～6月、世界総会出席（ワシントンD・C）、81歳。～ニューイングランド各地、ポートランド等を旅行。「教会へのあかし」第九巻出版。ローマリンダ医科大学に関する勧告（「教会へのあかし」第九巻、P.173-178）

1910年、ローマリンダ医科大学が高度な教育内容を含む大学であるべきことについての勧告。

1911年、「患難から栄光へ」出版。「各時代の争闘」改訂版出版。

1913年、「両親、教師、生徒への勧告」出版。

1914年、「国と指導者」執筆。

1915年2月13日、腰骨折、車いす生活を余儀なくされる。3月3日、最後の幻を受ける。「福音伝道者」改訂版出版。

1915年7月16日、カリフォルニア州のセントヘレナ市で死去（享年87歳）。

参考文献等：エレン・ホワイト —— その生涯とメッセージ —— 山形正男 著 福音社

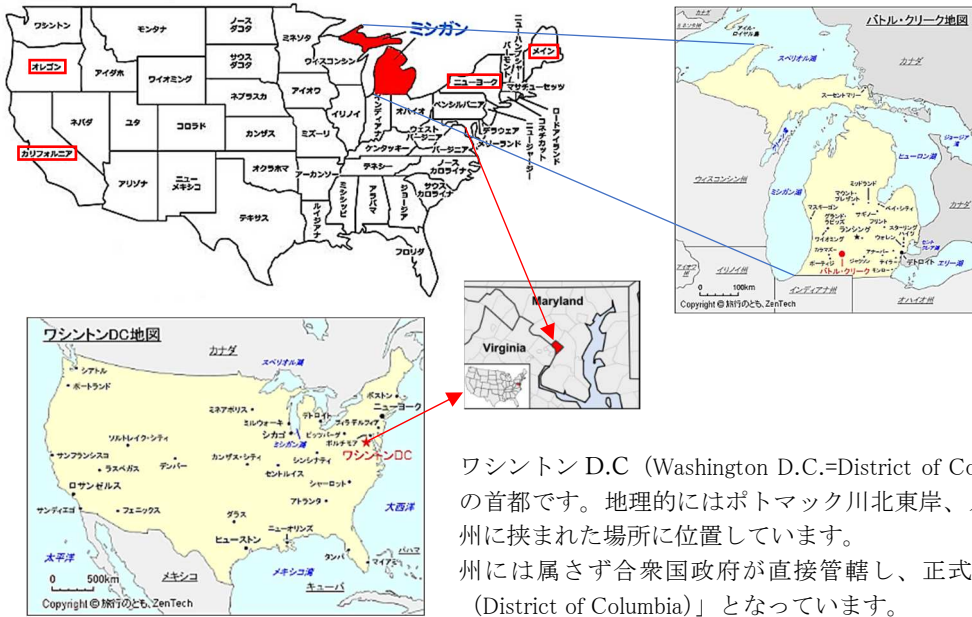
DVD：TELL the WORLD ～ 全世界に宣べ伝えよ（製作：オーストラリア教団）

SDAウェブサイト：<http://adventist.jp/tell-the-world/>

【参考】メソジスト(Methodist)

18世紀、英国でジョン・ウェスレー (John Wesley、1703年6月28日～1791年3月2日、英国教会の司祭) によって興されたキリスト教の信仰覚醒運動の中核をなすメソジズム Methodism に生きた人々、および、その運動から発展したプロテスタント教会・教派に属する人々を指します。メソジストという名称は「メソッド」を重んじることから「几帳面屋」(メソジスト) とあだ名されたことに始まった。麻布中学・高等学校、青山学院、関西学院、東洋英和女学院等の [ミッションスクール](#) や病院の建設、貧民救済などの社会福祉にも熱心である。

【参考】ミシガン州バトルクリーク 他



ワシントン D.C (Washington D.C.=District of Columbia) は、アメリカ合衆国の首都です。地理的にはポトマック川北東岸、メリーランド州とバージニア州に挟まれた場所に位置しています。州には属さず合衆国政府が直接管轄し、正式名称は「コロンビア特別区 (District of Columbia)」となっています。

お願い：記述等に誤記があれば、ご連絡ください。→andy2011@zeus.eonet.ne.jp

